

これからの未来を考える

# PAINTING OF TOM SAWYER

トム・ソーヤーのペンキ塗り

ソーシャルベンチャーの先導者、井上英之さんと、世界のグッドアイデアを紹介し続けるgreenz.jpがお届けする連載。世の中に転がる社会問題はたくさんあるけど、解決するのはなかなか大変。だけど、面白く、楽しみながら解決していけるアイデアがあったら…？ そんな「トム・ソーヤーのペンキ塗り」的な、FUN!が満載のソーシャル・デザインプロジェクトを紹介します！

Paint 09

株式会社オジメディア代表  
オキタリユウイチさん

## 『生きテク』=死なない技術

## 自殺防止へアクションを起す

## 若きポジティブCEO

Text 池田美砂子

1999年に巻き起こった「ヘブンズ・パスポート」のムーブメントを、ご記憶の方も多いでしょう。「キレる17歳」という不名誉な言葉でくられていた10代の若者たちに対して、100個良いことをしたら願いが叶うヘブンズ・パスポートを発行し、15万部を売り上げる社会現象となりました。このパスポートを企画・開発したのが、当時弱冠23歳だったオキタリユウイチさんです。その後、多方面にわたる活動を行うオキタさんは、2007年に自殺防止のためのテクニックを集めたサイト『生きテク』を立ち上げます。大胆な発想と行動力で人と人とがつながる仕掛けを発信し続けるオキタさんに、その着想の原点を伺いました。



井上英之の  
ここがポイント!!

「自殺を考えている人って、実際、どうなんだろう？」オキタさんは、マクロだけでモノを見ない。いつも「話してみないとわからない」アリテイがある。そして、踏み込んでみることで、たくさんの背景と物語を通して、遠くからではわからない、共通点と、希望、可能性も見えてくる。

一見して思う、ホームレスの人たちへの印象。本当に、「さぼっていただけなのか？水面下で起きてきた状況はいつもちよっと違う。社会の現場って、大抵そうだ。しっかりと耳を傾けよう。そこにパターンも見えてくる。自殺を考える人は、意外とロジカルで、計画を立てている。逆に、自殺を留まった時にもパターンがあるはずだ。そこに、新たな人間行動を生み出す「デザイン」の可能性が見える。「もし、渋谷の女子高生たちが、良いことをする度にシールを貼るパスポートで遊んだら、社会に良い

そんなカタログがないのなら自分で作る。そう考えたオキタさんが立ち上げたのが『生きテク』です。このサイトは、死にたいほど思い詰めた悩みを克服した人の体験談を集め、その解決方法をジャンル別に分類して掲載。閲覧した人が死を回避する方法を知ることができるようになっています。『生きテク』の斬新さは、そんな自殺を思いとどまった人々の解決法がアーカイブ化されていること。仕事を覚えて問題を解決した『働く系』、時間を経ることで痛みが和らぐ『時間系』など、8つの分類で生きるテクを紹介しています。まさに、死なないための情報カタログと言えるでしょう。

日本人は、提案された中から（人生でさえも）、選んでしまう傾向にある。でも、なぜ逆の「問題解決」の技術カタログが存在しないのでしょうか？。そこで、そんな「人生の問題解決のカタログが存在するのか」を調べ始めたのだと言います。しかし、いくら調べても、「励まし」「叱り」「具体的な死に方」ばかりで、「解決策をすべて網羅したもの」は、まったく出てこなかったそう。「つまり死にたいと思った人がネット検索をすると、死ぬ方法ばかりを知って、課題の解決方法を知る術が全くない。これが自殺者を増やす一因じゃないかと考えました」

年間3万513人。これは2011年に日本国内で、自殺で亡くなった方の人数です。この14年、年間自殺者数が3万人を突破する事態が続いている日本。長引く不況に先の読めない社会状況の中、様々な理由から死を見つめざるを得ない人々が増えています。この課題は本当に「声がけ」や「相談窓口の設置」などで根本的に解決するのだろうか？ オキタリユウイチさんは、そんな素朴な疑問から自殺問題についての考察を始めました。「インターネットで『自殺』というキーワードを検索してみると、驚くほどたくさんさんの「死ぬ技術」を紹介したサイトが出てきます。特



Tシャツ100人隊  
2007年の7月、9月の2回にわたって開催した、「生きテク」を告知するイベント。100人が100種類の「うれえうと死ぬ気を感じるTシャツ」をそれぞれ着て街を歩いた



天国のお父さんへ  
2008年1月7日、悪病でお父さんが自殺した渋谷ギャルの子が、お父さんに向けて書いた「なぜ死んじゃったの?」という内容の手紙を生きたテクのピラと一緒に新橋駅で配布した



生きテク、杉並く。  
2008年5月、山田区長、杉並区役所の職員の方々と一緒に、「自殺ZEROキャンペーン」イベントを開催。阿佐ヶ谷駅前「生きテク」、「杉並く」というジャンボ風船を掲げ、フリーペーパーなどを配った



### オキタリユウイチさん

1976年徳島県生まれ。早稲田大学中退。株式会社オジメディア代表取締役兼CEO。1999年、「ヘブンズパスポート」を開発・販売。2007年9月、「生きテク」を立ち上げる。2008年、(社)日本青年会議所・NPO法人「人間力開発協会」が主催する青年版国民栄誉賞「人間力大賞」厚生労働大臣奨励賞受賞。近著に『5秒で語ると夢は叶う』(サンマーク出版、1,470円)がある

ことの連鎖が生まれる。「ヘブンズ・パスポートは、小さな変化を生み出しながら、より大きなムーブメントへの橋渡しをするツールだ。良いことをする面白さが、伝染していく。常に、対話を重ね、変化が広がっていくポイントを意識して、新しいことを始めるオキタさん。デザインとはただきれいに伝えることじゃない。その背景に丁寧な観察や粘り強い目線、そして明るさや遊び心がありますよね！

井上英之(いのうえひでゆき)  
1971年生まれ。東京生まれ。慶應義塾大学卒業後、ジョージタウン大学大学院でハブリックマネジメントを専攻。ウィントンDC市政府、アンダーソン・コンサルティング勤務を経て2003年にフリーランスベンチャー・パートナーズ東京を設立。慶応義塾大学特別招聘准教授。国内・海外での講演活動。ソーシャルベンチャーを目指す人々の支援・育成など、ソーシャルインパクトに関するあらゆる世界を縦横無尽に駆け回り、幅広く活動中。

この話は「greenz.jp」でも掲載中!

<http://greenz.jp>  
greenz.jpとは

暮らしと世界を素敵に変えるグッドアイデアを厳選してオススメするウェブマガジン。「クリエイティブで持続可能なワクワクする社会をつくるムーブメントを起こすこと」を究極のゴールとして、メディアでの発信にとどまらず、イベントやスクールなども幅広く展開中